

各位

2025年3月12日  
セーフィー株式会社

## セーフィー、映像上にキロポスト情報を表示するサービスを本提供開始 ネクスコ東日本エンジニアリングと高速道路ソリューションを共同開発

クラウド録画サービスシェアNo.1（※1）のセーフィー株式会社（東京都品川区：代表取締役社長CEO 佐渡島 隆平、以下「セーフィー」）は、クラウドカメラ「Safie（セーフィー）」の映像データに高速道路のキロポスト（※2）情報の表示を行う「キロポスト表示オプション」の本提供を開始しました。このサービスは、株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング（東京都荒川区：代表取締役社長 良峰 透、以下「ネクスコ東日本エンジニアリング」）と共同開発をしたものです。



現地キロポスト情報をリアルタイム表示！

セーフィー、映像上にキロポスト情報を表示する  
高速道路事業向けサービスを本提供開始

現場  
DX

### ■ 「キロポスト表示オプション」の開発背景

日本では、2040年には15～64歳の働き手が現在の80%程度に減少する「8掛け社会」が訪れ、建設業界の特に道路メンテナンスや災害復旧においては22.0%の労働力不足が予想（※3）されています。さらに、2024年4月からは時間外労働の上限規制が施行（※4）される中、DXやIoT技術を導入した現場の効率化や生産性向上が進んでいます。

セーフィーは、これまで映像データをもとに遠隔での状況確認や業務効率化、映像解析による異常検知・予測などの様々なソリューションを提供し、建設・インフラ業界での現場のDXを推進（※5）してきました。

今回提供を開始した「キロポスト表示オプション」は、ウェアラブルクラウドカメラ「Safie Pocket2 Plus」の映像管理画面上に高速道路のキロポスト情報を表示するサービスです。「Safie Pocket2 Plus」の映像とキロポスト情報を同一画面で確認できることで、高速道路の各種維持管理業務における位置情報の把握が瞬時に可能となります。これにより、現場と管理側の情報共有が効率化され、迅速な意思決定が実現できます。

セーフィーは今後も、インフラ事業における維持管理業務の効率化を推進するとともに、建設から維持管理までの一元的なデータ管理・分析を通じて本格的なICT施工の実現に取り組み、インフラ業界全体のDXを加速させてまいります。

(※1) テクノ・システム・リサーチ社調べ「ネットワークカメラのクラウド録画サービス市場調査（2023）」より、エンジン別カメラ登録台数ベースのシェア（54.1%）

(※2) 道路管理のための延長を表示した標識で、道路端に設置されている距離標のこと

(※3) リクルートワークス研究所：未来予測2040 労働供給制約社会がやってくる | 報告書」（2023年03月28日発行）：<https://www.works-i.com/research/report/forecast2040.html>

(※4) 厚生労働省：時間外労働の上限規制：<https://hatarakikatakaikaku.mhlw.go.jp/overtime.html>

(※5) 導入事例「遠隔臨場で移動時間を6割軽減。ウェアラブルクラウドカメラで現場DXの最適化を目指す」（2023年3月30日公開）：<https://safie.jp/casestudy/e-nexco/>  
「遠隔立会から除雪対応まで、400km以上に及ぶ高速道路管理に活用 手軽さを武器に移動時間削減や遠隔での路面・状況把握を推進」（2024年9月12日公開）：<https://safie.jp/casestudy/e-nexco-m-ni/>

## ■ 実証実験の概要

- ・実施場所：NEXCO東日本 関東支社、新潟支社管内
- ・実施概要：現場巡回・点検の際に「Safie Pocket2 Plus」で撮影した映像上にキロポスト情報を表示させ、各種維持管理業務における使用性や精度などを検証

## ■ 実証実験の結果

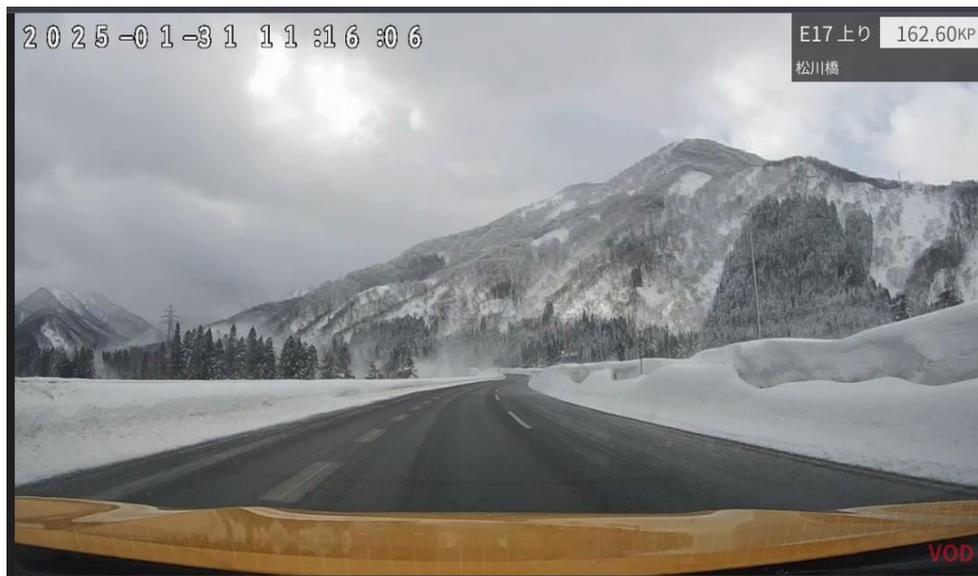
これまで「Safie Pocket」シリーズを活用した巡回・点検業務により、日常的なパトロールや利用者からの通報時の駆けつけ、事故車などの状況確認をはじめとする高速道路の維持管理業務において関係各所は映像を介して高速道路上の状況を把握していました。一方、事故や異常が発生した際、映像により「どこで何が起きているか」を把握したり、場所特定に利用しているツールを一元化したりすることで、現場の位置情報を特定するための時間が削減され、適切な判断・指示、意思決定を迅速にできないかと望まれていました。

## 「キロポスト表示オプション」の活用により、得られることができた結果

【1】異常発生の際、事務所にいる管理者が映像を見るだけで「どこで何が起きているか」をタイムリーに把握でき、異常発見時の初動対応の迅速性が向上

【2】損傷箇所などの異常を発見した際、「どの場所・地点」での事象なのかを映像を見るだけで把握できるため、関係各所内での情報共有の効率性が向上

【3】トラブル発生時に映像を振り返る際、キロポスト表示を確認することで事象起点の検索であたりをつけられるため、時間を要せずすぐに事実確認ができる



【本件に関するお問合せ先】

セーフィー株式会社 IR担当 Email:[ir@safie.jp](mailto:ir@safie.jp)